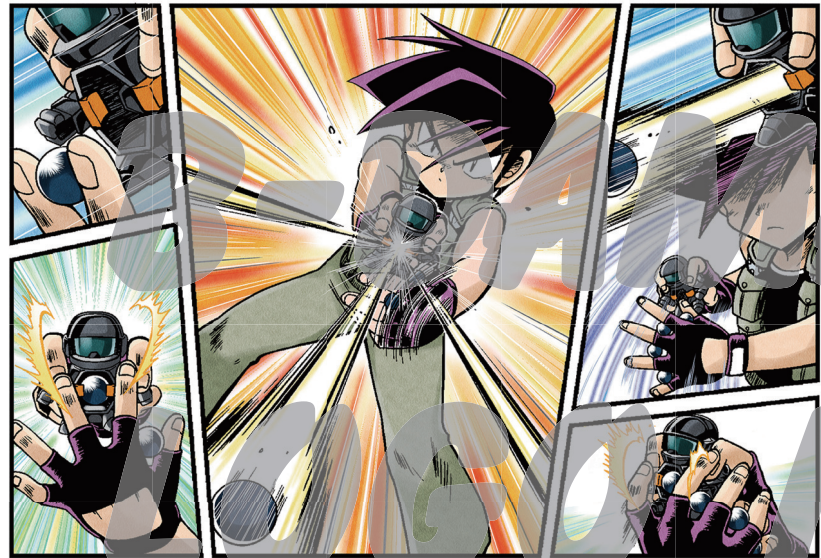




第1話「爆闘ライバル! ビー玉戦士」

コミックス1巻「爆球伝説ビーファイト!!」「スーパービーダマン誕生!!」に相当
脚本: 冨田祐弘 絵コンテ: 土蛇我現 演出: 日下直義



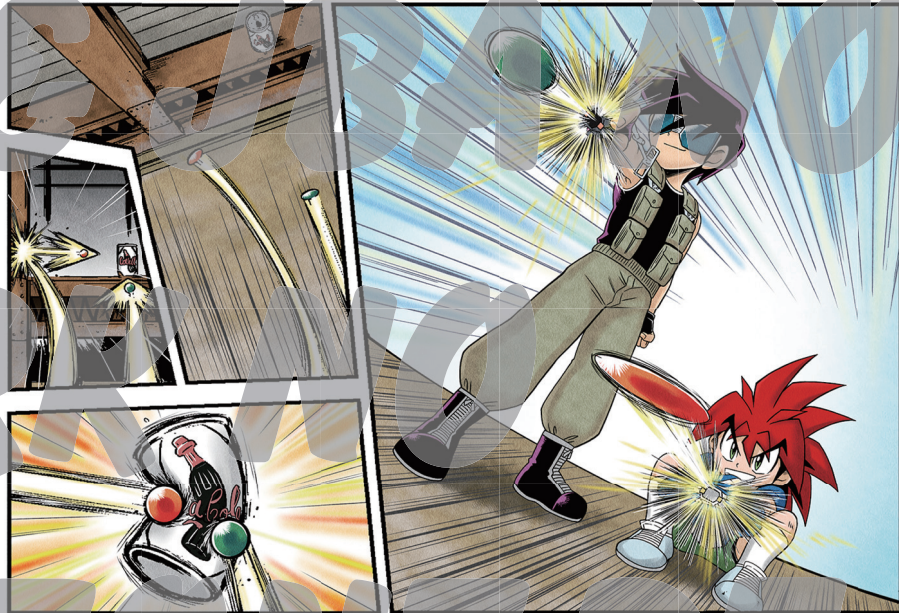
◀ガンマ流連射技^{れんしゃぎ}は漫画版のみの名称。左手の指の間にビー玉を挟んでおき、5発しか撃てない市販のビーダマンで1発射が可能。(左のシーンは予備のビーダマンなので頭部の「W」マークが無い。)



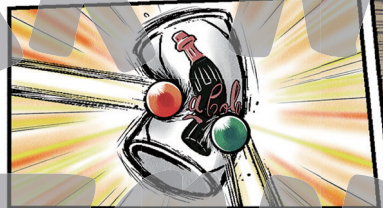
元トップビーダーのニンジャボンがYouTubeでガンマ流連射技を再現しているぞ! QRコードからアクセスしよう!
タマゴと同じクラスに転校したガンマ。しつこくバトルを迫るタマゴに呆れ、ガンマが決めたルールでバトルする。10本の空きカンに先に撃ち落とす早撃ちバトル。片手撃ちの連射力でガンマが圧勝。タマゴはしめ撃ちでホワイトビーダマンを壊してしまう。破損箇所はガンマが修理し、ピアノ線を用いた補強で元以上の強度になったとのこと。両手撃ちのタマゴは2連射可能な「リソウがたビーダマン」の設計図(イメージ図)を描く。深夜タマゴが寝ている間、玉四はホワイトビーダマンを設計図通りに改造してしまう。(なぜか図面上のトリガーがPIビーダマンのスライドレール式になっているが……)
起床したタマゴは改造に気付いていない。道端でガンマと出くわしたタマゴはバトルを申し出るが、勢い余ってブラックビーダマンが歩道橋から道路に落ちてしまう。
交通量の多い二車線道路(漫画版では四車線)のセンターラインに落ちたブラックビーダマンを救出するため、予備機を使ったガンマ流連射技で路肩まで弾き出そうとするが、トラックの振動が邪魔して最後の1発を外す。タマゴの追撃で路肩まで弾き出すが、さらにスクーターが迫る。
「あかん! オバチャンスクーターや!!」「連射……。オレに連射ができれば…」その時、ビー玉が装填されていることに気付いたタマゴは、無意識に2連射を決める。
「え? ええ〜?! あはははは、連射できちゃった♪」



▶ 戸坂 玉四



◀空きカン落としバトルは命名前のキャンシヨットで引き分け。



工事現場のベルトコンベアに乗せた空きカンをターゲットに、ウォーミングアップするタマゴ。アニメ版のタマゴはこそこの時に髪の毛が逆立つ描写があり、初登場から髪が逆立つ。ここは遊び場じやねエと何度言やわかったよ!! と叔父の玉四に捕まる。アニメ版のタマゴは玉四を「玉四おじさん」と呼び捨てにしている。バトルをしに広場へ行くと関西から「今日転校してきた」ガンマがいて、漫画版同様に敗れたビーダーから戦利品のビー玉を頂戴していた。一見「悪徳な行為と受け取れるかもしれないが、タカラの無料配布冊子「攻魔王」の創刊号(94年6月刊)には、負けた時はいさぎよくビーダマンを渡す」と記載されているため、言わば公式ルール。昭和の遊びの延長と捉えるべきだろう。日が暮れたためガンマとのバトルは翌朝となる。なぜかタマゴは工事現場で寝落ちし、早朝のバトルに寝坊する。漫画版ではかつてないライバルの登場に興奮し、夜中の工事現場ではしやぎ寝坊し寝落ちするのだが、はしゃぐタマゴを見て「あいつの勝負にかける情熱はアニキそつくりだぜ!」という、父親に関する伏線の描写もアニメ版には無い。タマゴが寝坊して広場に現れないため、カケルたちがガンマを工事現場まで案内する。
関西でのワイのオアタ名はスナイパーカんとし。スタート地点から離れた位置にある3本の空き缶のうち、2本先取った方が勝ち。強化ホルドパーツでパワーを上げたブラックビーダマンは、スタート地点から移動せずに狙撃可能。タマゴのホワイトビーダマンは両手でホルドパーツを締めつけるしめ撃ちに加え、破ったTシャツの布を引っ張る力、さらに両足を挟み込む力を足し合わせ、ブラックビーダマン以上のパワーショットを撃つ。狙いがずれるが工事現場の鉄骨に当たり跳ね返って空きカンに命中。同着により引き分け。

▲製品化されていないブラックビーダマン第1話仕様を再現した。小学五年生では背が高い方と思われるガンマの腕の長さを想定し、腕ブレ防止のストックを作成。一応、作中同様折り畳み可能。しかし、このストック形状ではガンマの目とスコープが遠すぎるのでは…?



▲強化ホルドパーツという設定なので、差別化するためバトルビーダマンゼロのオレンジ色のホルドパーツを装着した。

▶スコープはOSパーツ「レーザーサイト」をニコイチで再現。



(@ninjabon2020)

記念すべき第1話! 主人公・戸坂玉悟の熱血なキャラと対照的に、クールなライバル・西部丸馬のバトル。登場するビーダマンはタマゴのホワイトビーダマンとガンマのブラックビーダマン。原作ではボンパーマン型のビーダマンだけとハードソン(当時)の版権の都合で(?)アニメオリジナル形状に。二人の初バトルは遠距離からの狙い撃ち勝負に! ガンマの強化ホルドパーツ vs タマゴのしめ撃ちという構図。機体性能だけでなく腕前もものを言う、ビーダマンの魅力がよく表れている。そして強い精神力が勝利を呼ぶ!! タマゴの両足を使ったしめ撃ちは後に「キャンシヨット」と呼ばれる。なおリアルでキャンシヨットを真似してみると、パワーはあまり上らない。
でも両手の指の骨がきしむほどのしめ撃ちを、足でさらにしめつけるという発想に心躍った! 空き缶に直接命中するガンマのビー玉と、鉄骨に当たり跳ね返り命中するタマゴのビー玉。原作ではタマゴのビー魂が奇跡を起こしたという印象だけど、アニメ版第3話でこの伏線が回収される。これについては後ほど。しかし次のバトル、空き缶10本の早撃ち勝負ではガンマ流連射技が炸裂! 左手の指の間に挟んだビー玉を片手撃ちで次々と補充して連射する。この連射技を再現したかったけど子供の頃は指が小さくて、ビー玉を補充した直後に二本の指の間を通すようにビー玉を発射出来なかった。大人になって出来るようになったから夢が一つ叶った (YouTubeにアップしました笑)。そしてあの有名な(?)おばちゃんスクーターのシーン。道路のセンターライン付近に落下したガンマのブラックビーダマンを救うべく、タマゴは身を挺して横断歩道橋から飛び降りる。タマゴのビーダマン愛を感じる。ガンマは予備機の5連射で道路から弾き出そうとするも思わぬアクシデントで失敗。何故かタマゴのホワイトビーダマンは両手撃ちで連射可能なスーパービーダマンに改造されていて、2連射できるという衝撃のシーン! ビー玉を1発しか補充出来ないノーマルビーダマンの頭部が、叔父の玉四に改造され空洞になり、ビー玉を2発補充できる「スーパービーダマン誕生」。製品では最初からスーパービーダマン仕様なんだけど作中ではそうでないという設定だ。何はともあれガンマのブラックビーダマンが助かって良かった!

